

日露天然ガスパイプライン推進に関する緊急提言の概要

— 日露政府間交渉への後方支援のために —

日露天然ガスパイプラインとは

**全長1,500kmのパイプライン。
長期安定的なエネルギー供給を実現。**

サハリンと首都圏とを北海道、青森、岩手、宮城、福島、茨城を經由する最長1,500kmのパイプラインで結び、クリーンな天然ガスを長期安定的に供給する民営公益事業。将来的には中部、近畿等、全国を結ぶパイプライン構築も視野。

**サハリンから気体のまま搬送。
天然ガス調達コストを3割以上も削減。**

民間投資による建設費約7,000億円の償却および設備メンテナンス費を考慮しても、LNGでの船舶による輸入に比べ、3割以上ものコスト削減が可能。

**250億m³/年の輸送量。
日本の一次エネルギー消費量
の7.9%相当のインパクト。**

計画輸送量250億m³/年（最大）は、熱量換算で日本の一次エネルギー消費量（2017年）の約7.9%に相当。

多面的で力強い国益増進効果

① 日露関係緊密化促進

・日露直結の互恵的インフラ事業として、日露平和条約締結交渉の促進に寄与

② 経済成長促進

- ・エネルギー調達コスト圧縮によるGDP押上げ
- ・LNG輸入価格交渉力の向上等

③ 国土強靱化促進

- ・エネルギー供給システムのレジリエンス向上
- ・自立・分散型エネルギー普及
- ・エネルギーセキュリティ向上等

④ エネルギー改革促進

- ・石炭、石油系燃料及びLNGからの転換促進
- ・再生可能エネルギーの普及
- ・コージェネレーション拡大
- ・水素社会の基盤構築 等

⑤ 地方創生促進

- ・天然ガス活用による産業振興や新産業創造
- ・パイプライン建設及びメンテナンスなどによる雇用創出 等

⑥ 地球環境保全促進

- ・天然ガスはCO₂、NO_x、粒子状物質の排出量など、化石燃料中、最も優れた環境特性
- ・太陽光・風力発電の不安定性をカバー 等

緊急提言の骨子

◎ **本パイプラインを日露関係緊密化促進のための重要な選択肢として、ロシア側へ前向きに提起して頂きたいこと**

◎ **本パイプラインの国策国益的必要性に鑑み、内閣総理大臣をトップとする組織（例：内閣官房）を窓口として進めて頂きたいこと**